

# 2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年11月6日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 山下 正弘



- 2014年3月期 第2四半期 連結決算の概況
- 主力製品及び後発品の状況
- 研究開発パイプラインの状況
- 環境衛生事業について
- 2014年3月期 連結業績予想と配当

2014年3月期 第2四半期  
連結決算の概況

# 2014年3月期 第2四半期 連結決算の概観

(単位:億円)

	13年3月期 第2四半期 実績	14年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	480	<b>509</b>	<b>+29</b>	<b>+6.0</b>	<b>-6</b>
営業利益	63	<b>62</b>	<b>-1</b>	<b>-0.9</b>	<b>-5</b>
経常利益	66	<b>65</b>	<b>-1</b>	<b>-1.2</b>	<b>-5</b>
四半期純利益	43	<b>44</b>	<b>+1</b>	<b>+2.4</b>	<b>-2</b>

# セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

	13年3月期 第2四半期 実績	14年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	480	509	+29	+6.0	-6
医薬品事業		470	+30	+6.4	-8
	新医薬品	397	+32	+8.0	-6
	国内	387	+30	+7.9	-6
	海外	10	+2	+13.5	+1
	後発医薬品	51	+1	+2.5	+1
	一般用医薬品他	23	-3	-12.9	-2
ヘルスケア(スキンケア)事業	9	8	-1	-11.9	+1

	増減のポイント
国内新医薬品	<ul style="list-style-type: none"> <li>キョーリン製薬グループ工場の売上寄与(6ヶ月間)</li> <li>主力製品が伸長(キプレス、ペンタサ等)。予想に対しては未達(主にキプレス)</li> <li>導出品のロイヤリティ収入が増加</li> </ul>
海外新医薬品	ガチフロキサシンの売上が為替の影響により増加(現地売上:12年度2Q \$44MM→13年度2Q \$35MM)
後発医薬品	使用促進策等により卸店ルート(保険調剤薬局等)の売上が増加
一般用医薬品他	OTC、その他の売上が減少
ヘルスケア(スキンケア)事業	販路を通信販売に集中したため売上が減少

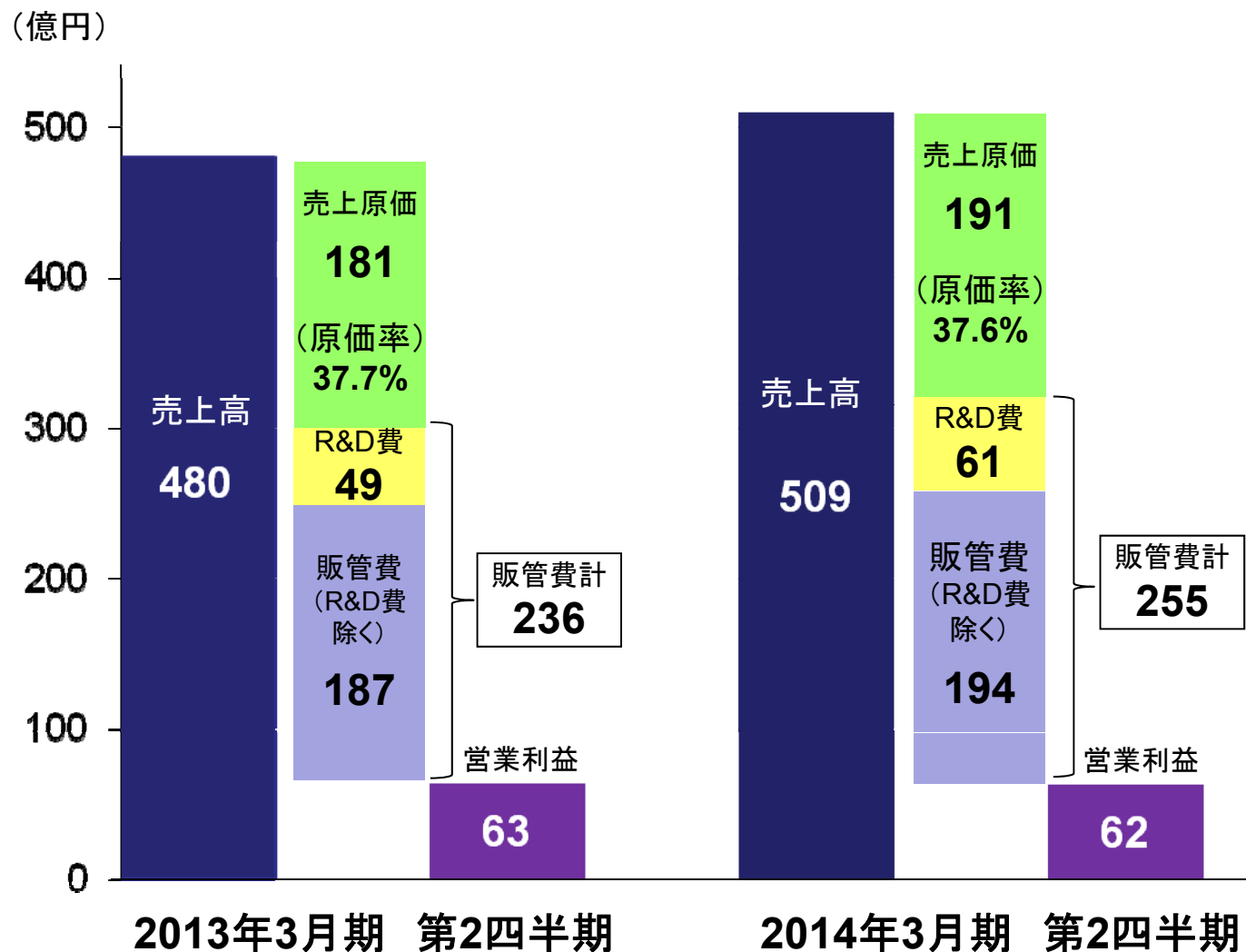
# 損益の概要(連結)

(単位:億円)

	13年3月期 第2四半期 実績	14年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	480	509	+29	+6.0	-6
売上原価	181	191	+10	+5.5	-
販売費及び一般管理費	236	255	+19	+8.3	-
R&D費	49	61	+12	+25.1	+4
販管費(R&D費除く)	187	194	+7	+3.9	-
営業利益	63	62	-1	-0.9	-5
経常利益	66	65	-1	-1.2	-5
四半期純利益	43	44	+1	+2.4	-2

	増減のポイント
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶<u>売上総利益</u> 19億円増加(売上の増加、原価率は横ばい)。予想に対しては未達(主にキプレス等の売上)</li> <li>▶<u>R&amp;D費</u> 開発パイプライン(主にKRP-209Ph2a)の進展により増加(対前年+12億円、対予想+4億円)</li> <li>▶<u>販管費(R&amp;D費除く)</u> 7億円の増加(一般経費及び販売費)。予想に対しては減少(費用の節減)</li> </ul>

# 2014年3月期 第2四半期 業績のポイント



## ポイント①

◇売上高は前年比29億円増

- ・国内新医薬品の増加
- ・キョーリン製薬グループ工場の売上寄与

## ポイント②

◇売上原価率は横ばい

◇売上総利益は19億円増

## ポイント③

◇販管費は前年比19億円増

- ・R&D費は12億円増  
(パイプラインの進展により下期計画を前倒し)
- ・販管費 (R&D費除く) は7億円増

営業利益は前年比1億円減

# 2014年3月期 第2四半期 主力製品の売上状況

(単位:億円)

	13年3月期 第2四半期 実績	14年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	163	<b>171</b>	+8	+5.0	-6
ムコダイン	83	<b>82</b>	-1	-0.6	+2
ペンタサ	90	<b>94</b>	+4	+4.8	+1
ウリトス	36	<b>37</b>	+1	+2.8	-2
ガチフロキサシン(海外)	9	<b>10</b>	+1	+14.1	+1

【参考】医療機関向け売上の増減率(薬価ベース)

キプレス(12年4-9月⇒13年4-9月)	8.5%増
-----------------------	-------

(出典:Copyright 2013 IMS ジャパン(株)IMS -JPMをもとに作成無断転載禁止)

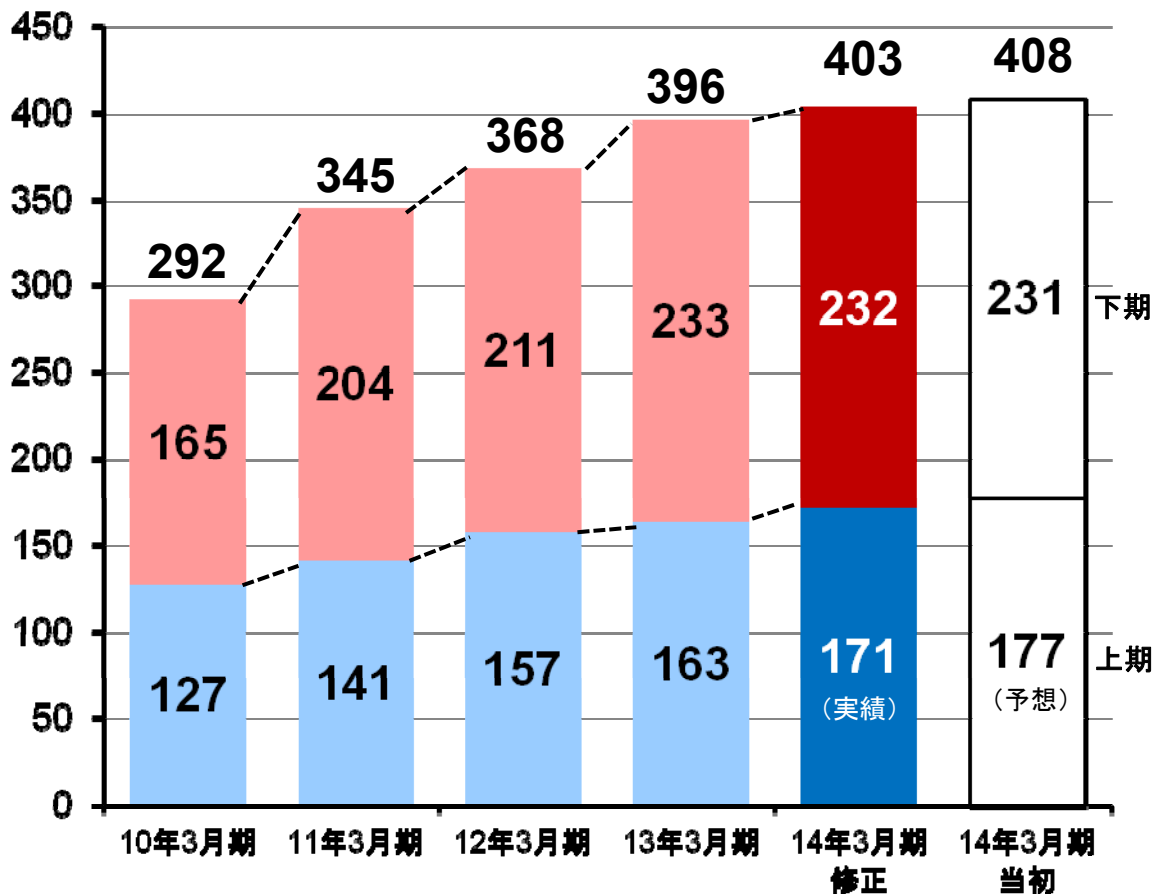


# 主力製品及び後発品の状況

# キプレス【気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤】



売上高（単位：億円）



## ■2013年度の取り組み

### ◆ロイコトリエン拮抗剤市場：約5%拡大

548億円(12年4-9月) ⇒ 575億円(13年4-9月) 注1

### ◆キプレスの売上シェア

34.5%(12年4-9月) ⇒ 35.7%(13年4-9月) 注2

【参考】キプレスの売上増減率の前期比較(13年4-9月)

- ・杏林製薬のキプレス売上：+5.0%
- ・医療機関向け売上(薬価ベース)：+8.5% 注3

### ■アレルギー性鼻炎(通年性・季節性)のベース薬としてポジショニング確立と新規処方獲得

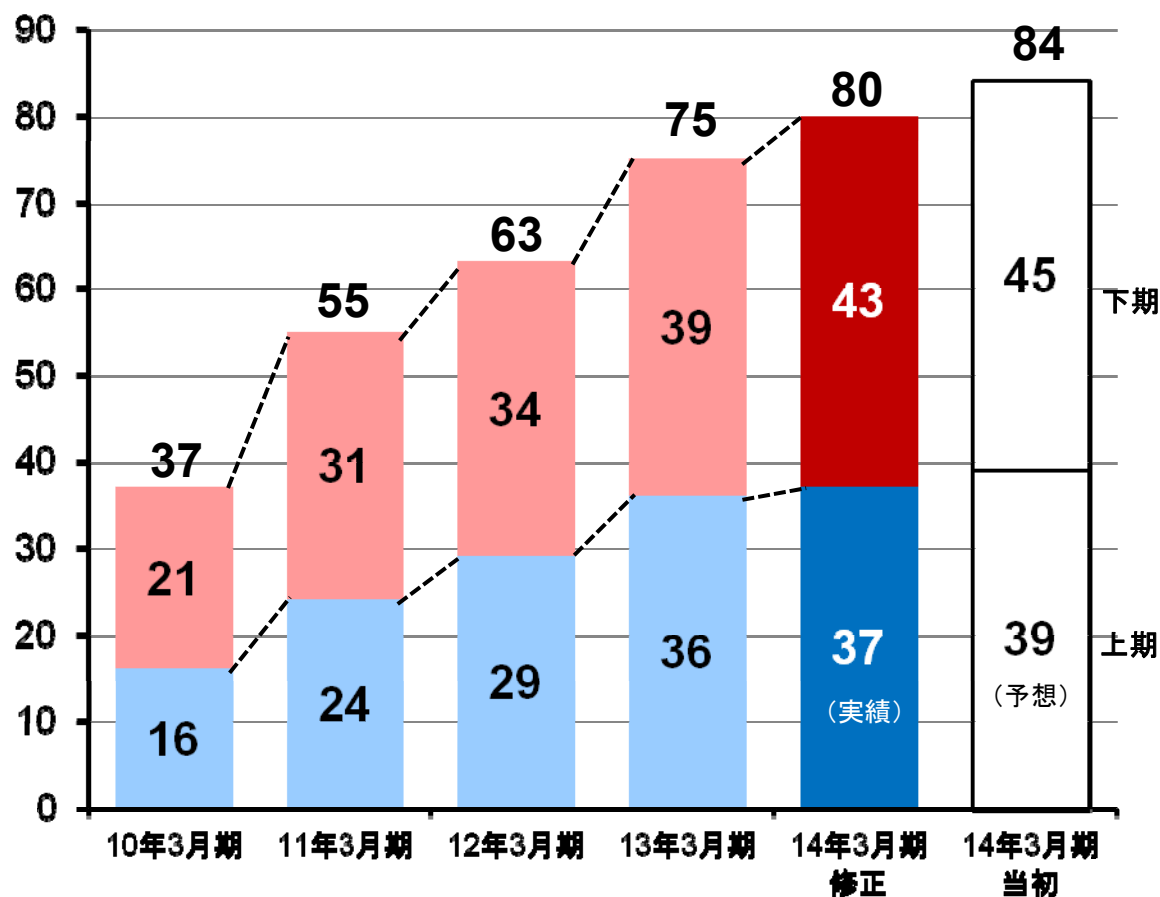
### ■喘息患者さんへの更なる処方促進

- ・鼻炎合併
- ・ウイルス誘発性喘息等

注1,2,3 (出典：Copyright 2013 IMS ジャパン(株)IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

# ウリトス 【過活動膀胱治療剤】

売上高（単位：億円）



## ■2013年度の取り組み

### ◆OAB市場：約9%拡大

335億円(12年4-9月) ⇒ 366億円(13年4-9月) 注1

### ◆ウリトスの売上シェア

11.6%(12年4-9月) ⇒ 11.0%(13年4-9月) 注2

### ■潜在市場の掘り起こし

- ・潜在患者数 約900万人 / 受診率 約28% (2011年度)
- ・潜在患者数 約910万人 / 受診率 約29% (2012年度)

### ■「使い易さ」の浸透による量拡の推進

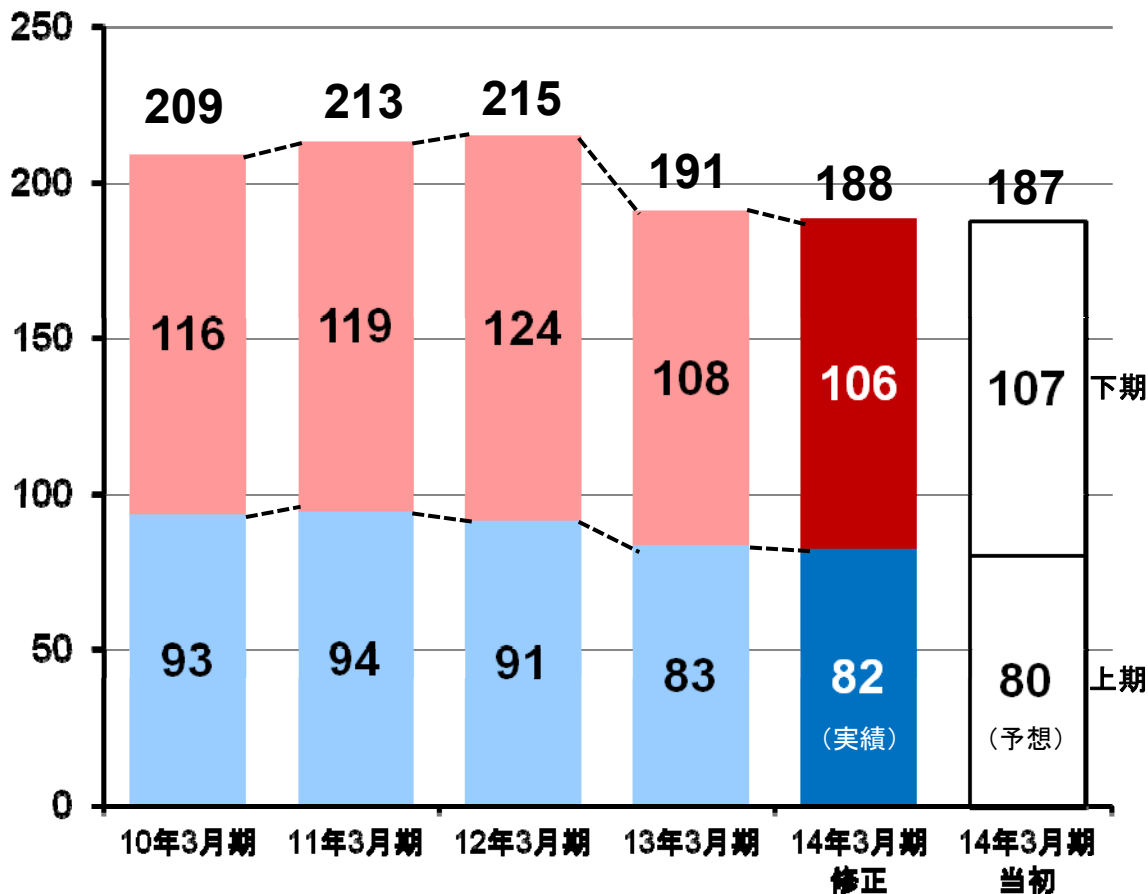
- ・効果と安全性のバランス
- ・症状にあわせた用量調節

注1,2(出典: Copyright 2013 IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

【OAB: 過活動膀胱の略】

# ムコダイン 【気道粘液修復・粘膜正常化剤】

売上高（単位：億円）



## ■2013年度の取り組み

### ◆去痰剤市場におけるムコダインの売上シェア

45.8% (12年4-9月) ⇒ 45.8% (13年4-9月) 注1

・ジェネリック(カルボシステイン)のシェア  
5.9% (12年4-9月) ⇒ 6.8% (13年4-9月) 注2

### ■「DS50%」の普及の最大化

・小児における上気道炎、高齢者の呼吸器疾患の処方獲得

### ■エビデンスに基づく慢性疾患での処方拡大

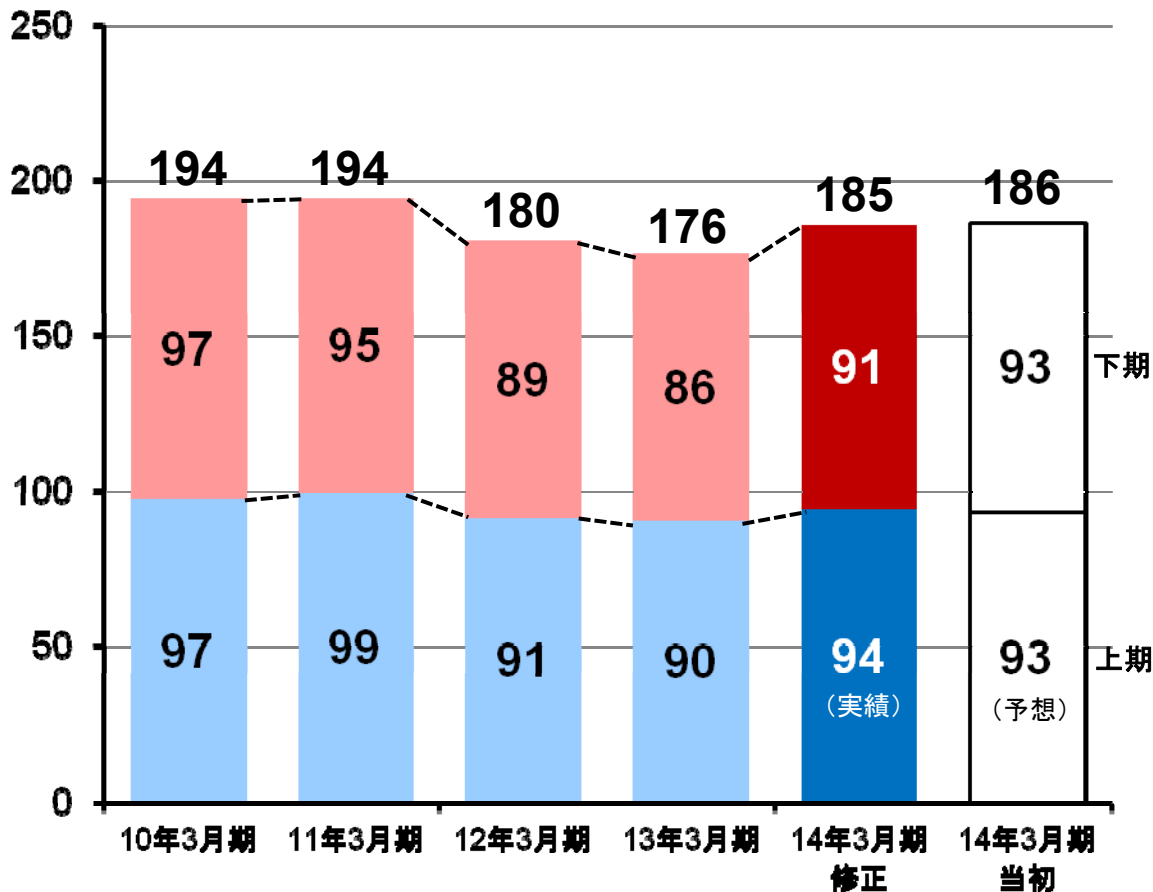
・気管支喘息、慢性気管支炎、慢性副鼻腔炎

注1,2 (出典: Copyright 2013 IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

# ペンタサ【潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤】



売上高（単位：億円）



## ■2013年度の取り組み

### ◆市場(メサラジン製剤等)：約11%拡大

167億円(12年4-9月) ⇒ 186億円(13年4-9月) 注1

### ◆ペンタサの売上シェア

58.1%(12年4-9月) ⇒ 53.9%(13年4-9月) 注2

### ■UCでの基準処方への定着化

- ・活動期4g分2投与
- ・寛解期2g分1投与(1日1回投与の浸透)

### ■新剤型：坐剤(6月発売)の市場浸透

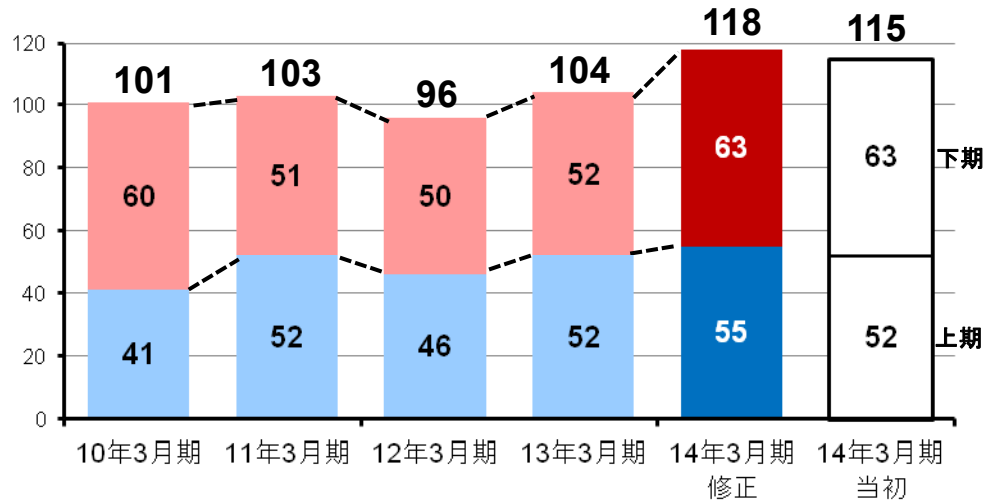
(売上：上期実績5億円、通期予想12億円)

注1,2 (出典：Copyright 2013 IMS ジャパン(株)IMS -JPMをもとに作成 無断転載禁止)

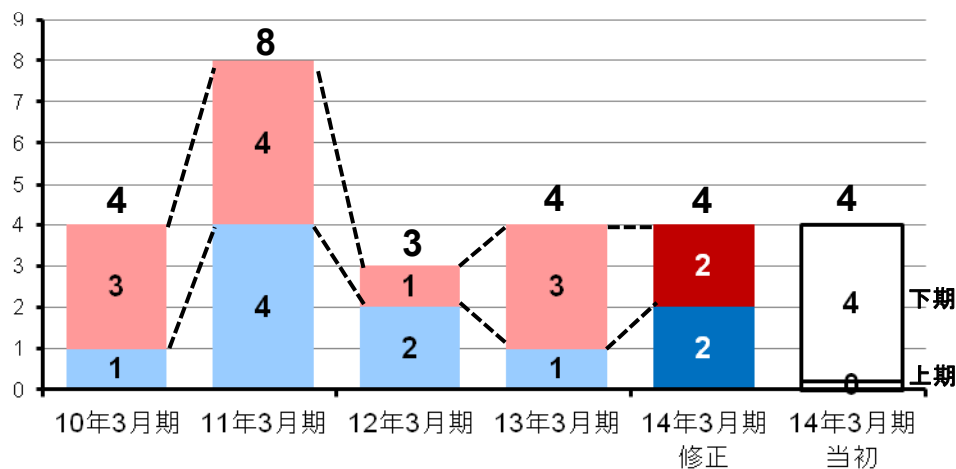
【UC：潰瘍性大腸炎の略】

# 【後発医薬品事業】キョーリン リメディオの状況

売上高（単位：億円）



営業利益（単位：億円）



## ■2013年度の取り組み

- 国内外アライアンスの推進  
自社開発の促進及び受託ビジネスの拡大
- グループ内連携の強化  
杏林製薬との販売面での連携強化

### ◆売上高

- 重点品の売上拡大  
アムロジピン、ドネペジル等
- 大型追補品の上市と目標の完達























- ・6月追補品（4成分8品目）  
フェキソフェナジン、リセドロン酸Na、他2成分
- ・12月追補予定品（4成分7品目）  
ピタバスタチンCa、バラシクロビル、他2成分


### ◆利益

- 収益性の向上を目指す  
・製造原価の低減（設備稼働率のアップ、原薬・資材の購入価格の低減）
- 共同開発の推進  
・自社主導の開発活動による費用の負担減  
・受託の推進

# 研究開発パイプラインの状況

# 開発パイプライン:2013年度の取り組み

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	フルティフォーム					 9月承認
	KRP-AB1102					 11月上市予定
	KRP-AB1102F			 8月 Ph III 開始		
泌尿器	<b>KRP-EPA605</b>	 10月 Ph I 開始				
耳鼻科	キプレス アレルギー性鼻炎 (1歳~15歳未満)			 4月 Ph III 開始		
	KRP-209					
感染症	KRP-AM1977X		 9月 Ph II 開始			
	KRP-AM1977Y					
IBD	ペンタサ(UC)坐剤					 6月上市
	KRP-203					

 2013年度 進展したパイプライン

 2013年下期に進捗予定



# 喘息治療配合剤 フルティフォーム<sup>®</sup>について

- 現在の状況：13年9月承認取得(11月薬価収載予定) 海外の状況：欧州12カ国で発売(ムンディファーマ)
- 「喘息治療・管理ガイドライン2012」(日本アレルギー学会作成)

		Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
長期管理薬	基本治療	吸入ステロイド薬	吸入ステロイド薬	吸入ステロイド薬 <b>フルティフォーム</b>	吸入ステロイド薬
			長時間作用性β2刺激薬	長時間作用性β2刺激薬	長時間作用性β2刺激薬
		ロイコトリエン受容体拮抗薬	ロイコトリエン受容体拮抗薬 <b>キプレス</b>	ロイコトリエン受容体拮抗薬	ロイコトリエン受容体拮抗薬
		テオフィリン徐放製剤	テオフィリン徐放製剤	テオフィリン徐放製剤	テオフィリン徐放製剤
	追加治療	抗LT薬以外の抗アレルギー薬	抗LT薬以外の抗アレルギー薬	抗LT薬以外の抗アレルギー薬	抗LT薬以外の抗アレルギー薬

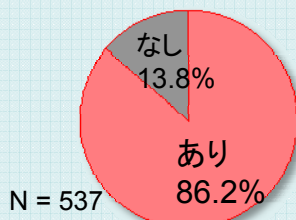
喘息予防・管理ガイドライン2012, P130, 協和企画より改変

約220万人

対象患者 約280万人

長期管理薬を服用していても、60～80%の患者さん(治療ステップ2～4)はコントロール不十分

何らかのきっかけ(気温の変化等)で喘息症状発現/増悪が起こった患者の割合



治療ステップ2～4の成人喘息患者を対象にした調査。(定期受診をしていて長期管理薬を継続服用している患者に限定した調査)

出典: 秋山一男 Allergology & Immunology, 19, 1120-1127 (2012)

コントロール不十分について(下記のいずれかの項目に該当する場合)

- 日中及び夜間の喘息症状：週1回以上
- 発作治療薬の使用：週1回以上
- 運動を含む活動制限：あり
- 呼吸機能(FEV1およびPEF)：予想値あるいは自己最高値の80%未満
- PEFの日(週)内変動：20%以上
- 増悪(予定外受診、救急受診、入院)：年に1回以上

## ➤フルティフォーム製品特性：

1. 最強のICSと最速のLABAの配合  
(Best Combination)
2. 速やかな効果の実感・良好な症状コントロール
3. 吸入操作が簡単：pMDI(エアゾール製剤)を採用



## ➤適切な吸入手技の浸透：

1. 服薬指導の情報提供を徹底 (医師、薬剤師、コメディカル)
2. 患者さん用指導ツールの充実

製品特性の理解促進／確実な吸入  
効果を実感

早期の市場浸透を図る

## ■「KRP-EPA605」の特徴

- ・プロスタグランジンEP1受容体拮抗剤  
(既存の抗コリン薬、 $\beta$ 3作動薬とは異なる新規の作用機序)

## ■開発状況

- ・第 I 相臨床試験開始(2013年10月)
- ・キッセイ薬品工業(株)と共同開発

**早期にPOC試験まで進め、有効性・安全性の確認を目指す**

# 新研究開発施設の建設について



## 【概要】

- 住所 : 現開発研究所敷地内(栃木県下都賀郡野木町1848)  
着工 : 2014年1月予定  
竣工 : 2015年8月予定  
運用開始 : 2015年10月予定

# 環境衛生事業について

# 環境衛生事業の取り組み

## ■既存品：殺菌消毒剤「ミルトン」の維持・拡充

(単位:億円)

	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度 (予想)	13年度 上期実績
売上	18	19	19	19	20	20	10



## ■新製品：環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及促進

感染防止対策加算1施設を中心に、新規採用、院内標準化による使用拡大を目指す  
(2013年度の売上目標：約3億円)

(注)感染防止対策加算1施設：専任の院内感染管理者が配置され感染防止に係る部門を設置している等の要件を満たしている施設



## ■製品ラインナップの拡充

### ①キョーリン感染症防護対策キット

- 新型インフルエンザ等の感染症パンデミックに係る個人防護具  
(防護服は米国デュポン社製の「デュポン™タイベック®」を使用)
- 2013年7月新発売
- 2013年4月「新型インフルエンザ等対策特別措置法」が施行  
※厚労省より示された指針に沿って、「指定公共機関」に指定された各医療機関が診療継続計画マニュアルを作成し、独自に防護具等の備蓄を実施



### ②ルビスタ嘔吐物処理キット

- 感染(ノロウイルス)が懸念される嘔吐物の感染リスクを軽減し、除去を行うためのキット
- 発売準備中



2014年3月期  
連結業績予想と配当

# 2014年3月期 業績予想(連結)

(単位:億円)

	13年3月期 実績	14年3月期 修正予想	対前年		対当初予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,070	1,126	+56	+5.2	-4
医薬品事業	1,052	1,109	+57	+5.5	-4
ヘルスケア(スキンケア)事業	19	17	-2	-9.0	0
営業利益	179	182	+3	+1.4	-4
経常利益	187	188	+1	+0.7	-4
当期純利益	124	124	0	-0.2	-3

	対前年	対予想	増減のポイント
売上高	+56	-4	
国内新医薬品	+45	-7	・キョーリン製薬グループ工場の売上寄与 ・対前年では主力製品が増加(キプレス、ペンタサ等)。当初予想に対しては下方修正(キプレス等) ・導出品のロイヤリティ収入の増加
海外新医薬品	-1	+2	前年はベキロン資産譲渡による契約金取得
後発医薬品	+13	+3	キョーリンリメディオの売上増
一般用医薬品他	-1	-3	OTC、その他の売上が減少
ヘルスケア(スキンケア)事業	-2	0	販路を通信販売に集中したため売上が減少
営業利益	+3	-4	> 売上総利益 対前年では売上増により増加。 売上修正と原価率上昇(主に新製品及び為替の影響)により当初予想に対して減 > 販管費(R&D費含む) 前年に対しては増加(R&D費、一般経費、販売費)しますが、当初予想から削減(R&D費を3億円減)

**過去最高の売上高・利益の更新を目指します**

【参考資料】対前年同期のポイント

- ・売上原価率は、前年比で若干の上昇
- ・販管費比率(R&D費含む)は、前年比横ばい
- ・R&D費118億円(前年比+7億円)



# 2014年3月期 主要製品及び後発品事業の売上予想

(単位:億円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 修正予想	対前年		対当初予想
			増減額	前年同期比(%)	増減額
キプレス	396	<b>403</b>	+7	+1.8	-5
ムコダイン	191	<b>188</b>	-3	-1.6	+1
ペンタサ	176	<b>185</b>	+9	+5.1	-1
ウリトス	75	<b>80</b>	+5	+7.2	-4
ガチフロキサシ (海外)	16	<b>18</b>	+2	+11.8	+2
後発品事業	101	<b>114</b>	+13	+13.3	+3

# 株主還元について

## 基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。  
株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

## 当期純利益の推移

	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (当初予想)	2014年3月期 (修正予想)
当期純利益	124億円	127億円	124億円

## 配当の推移

- ・2013年5月9日に公表しました配当予想の変更はございません。
- ・中間配当の10.00円につきましては、11月5日の取締役会で決議されました。

	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (当初予想)	2014年3月期 (修正予想)
1株当たり配当金	50.00円 (うち中間10.00円)	52.00円 (うち中間10.00円)	52.00円 (うち中間10.00円)
連結配当性向	30.1%	30.6%	31.2%

# 【参考資料】

## 損益計算書の概要：連結①

(単位：百万円)

	13年3月期 第2四半期		14年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	47,954	100.0%	50,851	100.0%	+6.0%	+2,897
医薬品事業	47,034	98.1%	50,040	98.4%	+6.4%	+3,006
◆新医薬品	39,684	82.8%	42,858	84.3%	+8.0%	+3,173
○国内	38,661	80.6%	41,697	82.0%	+7.9%	+3,035
○海外	1,023	2.2%	1,160	2.3%	+13.5%	+137
◆後発医薬品	5,056	10.5%	5,184	10.2%	+2.5%	+128
◆一般用医薬品他	2,292	4.8%	1,997	3.9%	-12.9%	-295
ヘルスケア事業 (スキンケア)	920	1.9%	810	1.6%	-11.9%	-109

### <当期のポイント>

- 対前年
- 売上高 **50,851百万円** (+2,897百万円)
  - 国内新医薬品 **41,697百万円** (+3,035百万円)
 

	13.3(2Q)		14.3(2Q)	(億円)
・キプレス	163	⇒	171	(+ 8)
・ムコダイン	83	⇒	82	(- 1)
・ペンタサ	90	⇒	94	(+ 4)
・ウリトス	36	⇒	37	(+ 1)
  - 海外新医薬品 **1,160百万円** (+ 137百万円)
    - ・ガチフロキサシン 9 ⇒ 10 (+ 1)
  - 後発医薬品 **5,184百万円** (+ 128百万円)
    - \* 使用促進策等により卸店ルート(保険調剤薬局)の売上増加
  - 一般用医薬品等 **1,997百万円** (- 295百万円)
    - \* その他の売上の減少
  - ヘルスケア(スキンケア) **810百万円** (- 109百万円)
    - \* ドクタープログラムの売上減少

#### <適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬(株)  
 Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH  
 ActivX Biosciences, Inc.  
 キョーリン リメディオ(株)  
 キョーリン メディカルサプライ(株)  
 ドクタープログラム(株)  
 キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社： 日本理化学薬品(株)

# 損益計算書の概要：連結一②

(単位：百万円)

	13年3月期 第2四半期		14年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	47,954	100.0%	50,851	100.0%	+6.0%	+2,897
売上原価	18,093	37.7%	19,097	37.6%	+5.5%	+1,003
売上総利益	29,860	62.3%	31,754	62.4%	+6.3%	+1,893
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	23,591 (4,892)	49.2% (10.2%)	25,541 (6,119)	50.2% (12.0%)	+8.3% (+25.1%)	+1,949 (+1,227)
営業利益	6,269	13.1%	6,213	12.2%	-0.9%	-55
営業外収益	401	0.8%	337	0.6%	-15.8%	-63
営業外費用	61	0.1%	19	0.0%	-67.5%	-41
経常利益	6,609	13.8%	6,531	12.8%	-1.2%	-77
特別利益	12	0.0%	237	0.5%	+1,765.2%	+224
特別損失	15	0.0%	184	0.4%	+1,101.2%	+168
税金等調整前 四半期純利益	6,606	13.8%	6,584	12.9%	-0.3%	-22
法人税・住民税 及び事業税	2,157	4.5%	1,810	3.6%	-16.1%	-347
法人税等調整額	153	0.3%	376	0.7%	+145.8%	+223
四半期純利益	4,295	9.0%	4,397	8.6%	+2.4%	+101

## <当期のポイント>

- ◆原価率：前年比0.1ポイント低下  
(37.7%→37.6%)  
【上昇要因】キョーリン製薬グループ工場、為替の影響  
【低下要因】導出品のロイヤリティ収入の増加
- ◆研究開発費率：前年比1.8ポイント上昇  
(10.2%→12.0%)  
\* 49億円→61億円 (12億円増加)  
開発パイプラインの進展(主にKRP-209Ph2a)
- ◆販管費率(除くR&D費)：前年比0.8ポイント低下  
(39.0%→38.2%)  
\* 187億円→194億円 (7億円増加)  
一般経費(本社移転、特許等使用料)、販売費増加
- 営業利益 6,213百万円 (- 55百万円)  
\* 営業利益率は12.2%と0.9ポイント低下
- 四半期純利益 4,397百万円 (+ 101百万円)
- 配当(中間) 10円00銭

# 貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	13年3月期末	
	実績	構成比
<b>流動資産</b>	108,265	69.9%
現金及び預金	21,370	—
受取手形及び売掛金	46,555	
有価証券	11,667	
棚卸資産	19,938	
その他流動資産	8,733	
<b>固定資産</b>	46,702	30.1%
有形固定資産	18,209	—
無形固定資産	916	
投資その他	27,577	
<b>資産合計</b>	154,968	100.0%

<b>流動負債</b>	22,897	14.8%
支払手形及び買掛金	8,556	—
その他流動負債	14,341	
<b>固定負債</b>	2,970	1.9%
<b>負債合計</b>	25,868	16.7%
<b>株主資本</b>	126,985	81.9%
<b>その他の包括利益累計額</b>	2,113	1.4%
その他有価証券評価差額金	2,293	—
為替換算調整勘定	-180	
<b>純資産合計</b>	129,099	83.3%
<b>負債及び純資産合計</b>	154,968	100.0%

14年3月期 第2四半期末		
実績	構成比	前期末増減
<b>111,665</b>	<b>71.7%</b>	<b>+3,400</b>
<b>34,902</b>	—	—
<b>35,547</b>		
<b>12,664</b>		
<b>22,112</b>		
<b>6,439</b>		
<b>44,174</b>	<b>28.3%</b>	<b>-2,528</b>
<b>17,864</b>	—	—
<b>1,017</b>		
<b>25,292</b>		
<b>155,840</b>	<b>100.0%</b>	<b>+872</b>

<b>23,392</b>	<b>15.0%</b>	<b>+494</b>
<b>10,613</b>	—	—
<b>12,779</b>		
<b>2,349</b>	<b>1.5%</b>	<b>-621</b>
<b>25,741</b>	<b>16.5%</b>	<b>-126</b>
<b>128,393</b>	<b>82.4%</b>	<b>+1,407</b>
<b>1,705</b>	<b>1.1%</b>	<b>-408</b>
<b>1,767</b>	—	—
<b>-61</b>		
<b>130,098</b>	<b>83.5%</b>	<b>+999</b>
<b>155,840</b>	<b>100.0%</b>	<b>+872</b>

## <当期のポイント>

### ■ 流動資産：3,400百万円増

- ・現金及び預金の増加 ( +13,532百万円)
- ・受取手形及び売掛金の減少 ( -11,008百万円)
- ・有価証券の増加 ( + 996百万円)
- ・棚卸資産の増加 ( + 2,174百万円)
- ・その他流動資産の減少 ( - 2,294百万円)

### ■ 固定資産：2,528百万円減

- ・有形固定資産の減少 ( - 344百万円)
- ・無形固定資産の増加 ( + 100百万円)
- ・投資その他の減少 ( - 2,284百万円)

### ■ 流動負債：494百万円増

- ・支払手形及び買掛金の増加 ( + 2,056百万円)
- ・その他流動負債の減少 ( - 1,561百万円)

### ■ 固定負債：621百万円減

# 主な業績項目の推移: 連結

(単位: 百万円)

	12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期
売上高 (海外売上)	46,387 (968)	47,954 (1,023)	<b>50,851</b> <b>(1,160)</b>
売上原価 (売上原価率)%	16,611 (35.8%)	18,093 (37.7%)	<b>19,097</b> <b>(37.6%)</b>
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	24,875 (53.6%)	23,591 (49.2%)	<b>25,541</b> <b>(50.2%)</b>
うち研究開発費 (研究開発费率)%	6,075 (13.1%)	4,892 (10.2%)	<b>6,119</b> <b>(12.0%)</b>
営業利益 (営業利益率)%	4,900 (10.6%)	6,269 (13.1%)	<b>6,213</b> <b>(12.2%)</b>
経常利益 (経常利益率)%	5,253 (11.3%)	6,609 (13.8%)	<b>6,531</b> <b>(12.8%)</b>
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	3,355 (7.2%)	4,295 (9.0%)	<b>4,397</b> <b>(8.6%)</b>
一株当たり当期利益(円)	44.90円	57.49円	<b>58.85円</b>
資本金	700	700	<b>700</b>
総資産	138,440	147,425	<b>155,840</b>
純資産	112,717	120,200	<b>130,098</b>
一株当たり純資産(円)	1,508.46円	1,608.74円	<b>1,741.24円</b>
自己資本利益率%	3.0%	3.6%	<b>3.4%</b>
自己資本比率%	81.4%	81.5%	<b>83.5%</b>
人員(人)	2,332人	2,346人	<b>2,481人</b>
設備投資	402	1,181	<b>1,618</b>
減価償却費	1,122	1,119	<b>1,460</b>

13年3月期	14年3月期 (修正予想)	14年3月期 (当初予想)
107,031 (2,400)	112,600 (2,300)	113,000 (2,100)
40,133 (37.5%)	—	—
48,949 (45.7%)	—	—
11,059 (10.3%)	11,800 (10.5%)	12,100 (10.7%)
17,948 (16.8%)	18,200 (16.2%)	18,600 (16.5%)
18,676 (17.4%)	18,800 (16.7%)	19,200 (17.0%)
12,422 (11.6%)	12,400 (11.0%)	12,700 (11.2%)
166.25円	165.96円	169.98円
700	—	—
154,968	—	—
129,099	—	—
1,727.86円	—	—
10.0%	—	—
83.3%	—	—
2,444人	—	—
6,576	4,200	4,400
2,738	3,200	3,300

# 損益計算書の概要：杏林製薬①

(単位：百万円)

	13年3月期 第2四半期		14年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	42,951	100.0%	<b>44,933</b>	100.0%	+4.6%	+1,982
医薬品事業	42,951	100.0%	<b>44,933</b>	100.0%	+4.6%	+1,982
◆新医薬品	39,636	92.3%	<b>41,311</b>	92.0%	+4.2%	+1,675
○国内	38,661	90.0%	<b>40,214</b>	89.5%	+4.0%	+1,552
○海外	974	2.3%	<b>1,097</b>	2.5%	+12.6%	+122
◆後発医薬品	1,963	4.6%	<b>2,216</b>	4.9%	+12.9%	+253
◆一般用医薬品他	1,351	3.1%	<b>1,405</b>	3.1%	+4.0%	+53

## <当期のポイント>

対前年

- 売上高 **44,933百万円** (+1,982百万円)
- 国内新医薬品 **40,214百万円** (+1,552百万円)
 

	13.3(2Q)		14.3(2Q)	(億円)
・キプレス	163	⇒	171	(+ 8)
・ムコダイン	83	⇒	82	(- 1)
・ペンタサ	90	⇒	94	(+ 4)
・ウリス	36	⇒	37	(+ 1)
- 海外新医薬品 **1,097百万円** (+ 122百万円)
  - ・ガチフロキサシン 9 ⇒ 10 (+ 1)
- 後発医薬品 **2,216百万円** (+ 253百万円)
  - ・主にキョーリン リメディオ製品の売上増
- 一般用医薬品他 **1,405百万円** (+ 53百万円)
  - ・ミルトン 10 ⇒ 10 ( 0)

# 損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位：百万円)

	13年3月期 第2四半期		14年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	42,951	100.0%	<b>44,933</b>	100.0%	+4.6%	+1,982
売上原価	15,360	35.8%	<b>15,609</b>	34.7%	+1.6%	+249
売上総利益	27,591	64.2%	<b>29,323</b>	65.3%	+6.3%	+1,732
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	21,680 (4,681)	50.5% (10.9%)	<b>23,748</b> <b>(5,848)</b>	52.9% (13.0%)	+9.5% (+24.9%)	+2,068 (+1,167)
営業利益	5,910	13.8%	<b>5,575</b>	12.4%	-5.7%	-335
営業外収益	588	1.4%	<b>525</b>	1.1%	-10.8%	-63
営業外費用	28	0.1%	<b>12</b>	0.0%	-56.0%	-16
経常利益	6,470	15.1%	<b>6,087</b>	13.5%	-5.9%	-383
特別利益	10	0.0%	<b>235</b>	0.5%	+2,154.7%	+225
特別損失	8	0.0%	<b>32</b>	0.0%	+296.0%	+24
税引前四半期純利益	6,473	15.1%	<b>6,291</b>	14.0%	-2.8%	-181
法人税・住民税 及び事業税	2,109	4.9%	<b>1,689</b>	3.8%	-19.9%	-419
法人税等調整額	122	0.3%	<b>340</b>	0.7%	+177.4%	+217
四半期純利益	4,240	9.9%	<b>4,261</b>	9.5%	+0.5%	+20

## <当期のポイント>

◆原価率：前年比 1.1ポイント低下  
(35.8%→34.7%)

【上昇要因】為替の影響

【低下要因】導出品のロイヤリティ収入の増加

◆研究開発費率：前年比 2.1ポイント上昇  
(10.9%→13.0%)

\* 47億円→58億円 (11億円増加)

開発パイプラインの進展(主にKRP-209Ph2a)

◆販管費率(除くR&D費)：前年比0.2ポイント上昇  
(39.6%→39.8%)

■営業利益 5,575百万円 (-335百万円)

\* 営業利益率は12.4%と1.4ポイント低下

■四半期純利益 4,261百万円 (+20百万円)



# 貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位：百万円)

	13年3月期末	
	実績	構成比
<b>流動資産</b>	84,041	69.0%
現金及び預金	7,192	—
売掛金	43,320	
有価証券	11,604	
棚卸資産	16,615	
その他流動資産	5,308	
<b>固定資産</b>	37,840	31.0%
有形固定資産	11,340	—
無形固定資産	284	
投資その他	26,215	
<b>資産合計</b>	121,881	100.0%

<b>流動負債</b>	16,880	13.9%
支払手形及び買掛金	5,445	—
その他流動負債	11,435	
<b>固定負債</b>	2,156	1.8%
<b>負債合計</b>	19,037	15.6%
<b>株主資本</b>	100,586	82.5%
評価・換算差額等	2,257	1.9%
<b>純資産合計</b>	102,844	84.4%
<b>負債及び純資産合計</b>	121,881	100.0%

14年3月期 第2四半期末		
実績	構成比	前期末増減
<b>86,440</b>	70.6%	+2,399
<b>17,619</b>	—	—
<b>32,580</b>		
<b>12,601</b>		
<b>18,580</b>		
<b>5,058</b>		
<b>35,955</b>	29.4%	-1,884
<b>11,207</b>	—	—
<b>315</b>		
<b>24,432</b>		
<b>122,396</b>	100.0%	+514

<b>17,306</b>	14.1%	+426
<b>7,206</b>	—	—
<b>10,100</b>		
<b>1,481</b>	1.2%	-675
<b>18,787</b>	15.3%	-249
<b>101,877</b>	83.3%	+1,290
<b>1,731</b>	1.4%	-526
<b>103,608</b>	84.7%	+763
<b>122,396</b>	100.0%	+514

## <当期のポイント>

### ■流動資産：2,399百万円増

- ・現金及び預金の増加 (＋10,426百万円)
- ・売掛金の減少 (－10,739百万円)
- ・有価証券の増加 (＋ 996百万円)
- ・棚卸資産の増加 (＋ 1,964百万円)

### ■固定資産：1,884百万円減

- ・有形固定資産の減少 (－ 133百万円)
- ・無形固定資産の増加 (＋ 31百万円)
- ・投資その他の減少 (－ 1,782百万円)

### ■流動負債：426百万円増

- ・支払手形及び買掛金の増加 (＋ 1,761百万円)
- ・その他流動負債の減少 (－ 1,335百万円)

### ■固定負債：675百万円減

# 主な業績項目の推移: 杏林製薬

(単位: 百万円)

	12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期
売上高 (海外売上)	41,831 (927)	42,951 (974)	<b>44,933</b> <b>(1,097)</b>
売上原価 (売上原価率)%	14,383 (34.4%)	15,360 (35.8%)	<b>15,609</b> <b>(34.7%)</b>
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	22,735 (54.4%)	21,680 (50.5%)	<b>23,748</b> <b>(52.9%)</b>
うち研究開発費 (研究開発费率)%	5,762 (13.8%)	4,681 (10.9%)	<b>5,848</b> <b>(13.0%)</b>
営業利益 (営業利益率)%	4,712 (11.3%)	5,910 (13.8%)	<b>5,575</b> <b>(12.4%)</b>
経常利益 (経常利益率)%	5,282 (12.6%)	6,470 (15.1%)	<b>6,087</b> <b>(13.5%)</b>
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	3,414 (8.2%)	4,240 (9.9%)	<b>4,261</b> <b>(9.5%)</b>
一株当たり当期利益(円)	45.97円	57.10円	<b>57.38円</b>
資本金	4,317	4,317	<b>4,317</b>
総資産	115,008	124,789	<b>122,396</b>
純資産	96,674	104,128	<b>103,608</b>
一株当たり純資産(円)	1,301.70円	1,402.06円	<b>1,395.06円</b>
自己資本利益率%	3.6%	4.1%	<b>4.1%</b>
自己資本比率%	84.1%	83.4%	<b>84.7%</b>
人員(人)	1,826人	1,832人	<b>1,797人</b>
設備投資	313	716	<b>929</b>
減価償却費	841	828	<b>807</b>

13年3月期	14年3月期 (修正予想)	14年3月期 (当初予想)
95,894 (2,277)	99,500 (2,100)	100,000 (1,900)
33,868 (35.3%)	—	—
44,898 (46.8%)	—	—
10,733 (11.2%)	11,000 (11.1%)	11,300 (11.3%)
17,127 (17.9%)	17,000 (17.1%)	17,700 (17.7%)
18,209 (19.0%)	17,800 (17.9%)	18,600 (18.6%)
11,931 (12.4%)	11,900 (12.0%)	12,400 (12.4%)
160.66円	—	—
4,317	—	—
121,881	—	—
102,844	—	—
1,384.77円	—	—
11.6%	—	—
84.4%	—	—
1,797人	—	—
1,507	2,300	2,800
1,743	1,800	1,800

# 2014年3月期 第2四半期 業績と予想(連結)



(単位:百万円)

	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	前年差額	前年比	13年3月期	14年3月期 (修正予想)	14年3月期 (当初予想)
売上高	47,954	50,851	+2,897	+6.0%	107,031	112,600	113,000
医薬品事業	47,034	50,040	+3,006	+6.4%	105,162	110,900	111,300
◆新医薬品	39,684	42,858	+3,173	+8.0%	90,686	95,100	95,600
○国内	38,661	41,697	+3,035	+7.9%	88,286	92,800	93,500
○海外	1,023	1,160	+137	+13.5%	2,400	2,300	2,100
◆後発医薬品	5,056	5,184	+128	+2.5%	10,095	11,400	11,100
◆一般用医薬品他	2,292	1,997	-295	-12.9%	4,379	4,300	4,600
ヘルスケア事業 (スキンケア)	920	810	-109	-11.9%	1,869	1,700	1,700
営業利益	6,269	6,213	-55	-0.9%	17,948	18,200	18,600
経常利益	6,609	6,531	-77	-1.2%	18,676	18,800	19,200
当期純利益	4,295	4,397	+101	+2.4%	12,422	12,400	12,700

# 主な子会社の業績と予想

(単位: 億円)

杏林製薬	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期
売上高	430	<b>449</b>
営業利益	59	<b>56</b>
当期純利益	42	<b>43</b>

13年3月期	14年3月期 (修正予想)
959	<b>995</b>
171	<b>170</b>
119	<b>119</b>

14年3月期 (当初予想)
1,000
177
124

キョーリン リメディオ	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期
売上高	52	<b>55</b>
営業利益	1	<b>2</b>
当期純利益	0	<b>1</b>

13年3月期	14年3月期 (修正予想)
104	<b>118</b>
4	<b>4</b>
5	<b>2</b>

14年3月期 (当初予想)
115
4
2

ドクタープログラム	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期
売上高	9	<b>8</b>
営業利益	-1	<b>1</b>
当期純利益	-2	<b>1</b>

13年3月期	14年3月期 (修正予想)
19	<b>17</b>
-2	<b>1</b>
-3	<b>1</b>

14年3月期 (当初予想)
17
1
1

# 2014年3月期 第2四半期 主要製品の状況

(単位: 億円)

		11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期		13年3月期	14年3月期 (修正予想)	14年3月期 (当初予想)
					実績	前 同 比			
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	141	157	163	171	+5.0%	396	403	408
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	94	91	83	82	-0.6%	191	188	187
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	99	91	90	94	+4.8%	176	185	186
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	24	29	36	37	+2.8%	75	80	84
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	20	18	15	15	-0.7%	30	29	27
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	13	8	9	10	+14.1%	16	18	16
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	9	9	10	10	-1.3%	20	20	21

# 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結)

(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	増減比	13年3月期	14年3月期 (修正予想)	14年3月期 (当初予想)
研究開発費	6,879	6,075	4,892	<b>6,119</b>	+25.1%	11,059	<b>11,800</b>	12,100
設備投資	633	402	1,181	<b>1,618</b>	+37.1%	6,576	<b>4,200</b>	4,400
減価償却費	1,163	1,122	1,119	<b>1,460</b>	+30.4%	2,738	<b>3,200</b>	3,300

## 【設備投資の詳細】

(単位:億円)

	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	13年3月期	14年3月期 (修正予想)	14年3月期 (当初予想)
工場設備	4	<b>8</b>	46	<b>19</b>	16
管理・販売設備	5	<b>4</b>	14	<b>14</b>	12
研究用設備	2	<b>4</b>	5	<b>9</b>	16

# 2014年3月期 第2四半期 セグメント情報

## 報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	509	+29	62	-1
医薬品事業計	500	+30	59	-4
◆新医薬品	429	+32		
○国内	417	+30		
○海外	12	+2		
◆後発医薬品	52	+1		
◆一般用医薬品他	20	-3		
ヘルスケア事業計	8	-1	1	+2
調整額	-	-	2	+1

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

# 開発品一覧①(2013年11月5日現在)

## PhⅢ ~承認

※:前回(2014年3月期 第1四半期 7月30日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
※承認 (13年9月)	(アメリカ) スカイファーマ :申請(09年3月) (欧州) ムンディファーマ :上市(12年9月)	フルティフォーム (KRP-108) (吸入剤)	気管支喘息治療剤	イギリス スカイファーマ社	吸入ステロイド薬(ICS:フルチカゾン)及び長時間作用性β2刺激薬(LABA:ホルモテロール)の配合剤で利便性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社とライセンス契約 (08年4月) 国内PhⅢ終了(12年3月)
PhⅢ (12年9月)	(欧州) アルミラール社 :上市(12年9月) (アメリカ) フォレスト社 :上市(12年12月)	KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器: Genuairを使用	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (13年4月)		キプレス (チュアブル錠、 細粒)	気管支喘息治療剤	米国 メルク社	小児:アレルギー性鼻炎	新効能・効果 MSD(株)との共同開発
※PhⅢ (13年8月)	(欧州) アルミラール社 :申請(13年10月) (アメリカ) フォレスト社:PhⅢ	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA:アクリジニウム)と長時間作用性β2刺激薬(LABA:ホルモテロール)の配合剤	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)

- ・潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」: 2013年6月発売
- ・過活動膀胱治療剤「ウリトス」: 2013年7月韓国で発売(鐘根堂)



# 開発品一覧②(2013年11月5日現在)

## POCプロジェクト(Ph I ~ Ph II)

※: 前回(2014年3月期 第1四半期 7月30日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (11年8月)	Ph III ムツ社	KRP-209	耳鳴	ドイツ ムツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ムツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II (13年3月)	Ph II (POC) (10年12月) ハルティス	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ハルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
※Ph II (13年9月)		KRP-AM1977X (経口剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	
Ph I (12年7月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社		
※Ph I (13年10月)		KRP-EPA605	過活動膀胱治療剤	自社	プロスタグランジンEP1受容体拮抗作用を有し、膀胱の排尿筋過活動を抑制することにより頻尿の改善が期待される	キッセイ薬品工業(株)との共同開発

## ■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。